

2002年10月25日

ディケンズ・フェロウシップ日本支部 ニュースレター

2002年度総会は快晴の10月5日(土)甲南大学で開催された。将来のジョイント・プログラムを予想させるかのように翌日にはギaskell協会の総会が近くの手前大学で開かれ、はからずも知的刺激に富む2日間が繰り広げられた。DF 総会会場には「小池コレクション」が特別展示され、珍しい書物とともに英国鉄道のさまざまな版画・パンフレットが出席者の大きな関心を呼んだ。今総会においては改正された「支部規約」にしたがって理事改選が行われ、5名の理事が入れ替わり、勇退された理事諸氏には長期にわたる献身的な協力と活動にたいして支部長よりねぎらいの言葉があった。一方、再任された支部長は、懸案事項になっている『ディケンズ観賞事典』にできるだけ速やかに取りかかりこれを任期内に完成させたいとの抱負を述べられた。以下、総会議事と内容について報告いたします。

総会

青木副支部長の司会のもとに西條支部長が議長をつとめ、議事が進められた。

1 総会議事

(1) 役員改正

	留任	勇退	新任
名誉支部長	宮崎孝一、小池滋	太田良子	要田圭治
支部長	西條隆雄	間 二郎	齋藤九一
副支部長	青木 健	久田晴則	新野 緑
監査	松村昌家	北條文緒	廣野由美子
年報担当	原 英一	山本史郎	松村豊子
ネット担当	松岡光治		
財務理事	田中孝信		
理事	植木研介、佐々木徹		

【以上可決】

(2) 2002年度活動報告

Prof. Malcolm Andrews 来日講演(4月14日、於同志社大学) 春季大会開催(6月8日、於駒澤大学) Dickens Fellowship Centenary Conference(7月18~25日、於ロンドン大学)支部より14名の参加、『年報』発行(10月5日) 総会開催(10月5日、於甲南大学) 本年10月より国立国会図書館関西館にも『年報』および「ニュースレター」のPDF版を保存・公開。

【報告了承】

(3) 2002年度会計報告・監査報告

別紙のとおり会計報告につづいて監査報告があり、満場一致で可決された。 【可決】

(4) 2003年度会費

2003年度会費は、本年度と同じ6,000円に据え置く。 【可決】

(5) 諸報告

- 松岡理事より、支部のウェブサイト充実のため、会員の業績報告および論文掲載の依頼がありました。よろしくご協力をお願いします。
- 『年報』が表紙デザインを一新し、内容も格段に充実しました。支部活動の原点として、ますますの充実を図るつもりです。
- 2003年度春季大会は弘前大学において6月7日に開催いたします。ご予定ください。

2 研究発表

要田圭治氏(広島大学)の司会で、寺内孝氏(春日丘高校)による次の発表があった。

「'エクセルシア'考 ディケンズとロングフェロウの一接点」

‘excelsior’ =(higher) なる語は New York 州章に刻まれており、Longfellow が “Excelsior” (1842) を発表して以来、さまざまな作家、文人にこの語が用いられていることを寺内氏は例証した。Dickens もまた *Speeches* にこの語を用いており、彼とロングフェロウの交友関係が、アメリカ訪問を機に深まってゆく跡が興味深く語られた。文献渉獵の面白さを教えてくれる意欲的な発表であった。

3 *A Christmas Carol* 朗読

Professor Rycroft (Konan Univ.) は、Collins 編の公開朗読用テキストを用い、亡霊出現前の吝嗇漢 Scrooge と改心して陽気になった彼の部分を朗読し、ことばのリズムでこれをみごとに劇化・対照させた。多忙な公務の合間を縫っての出演であったが、練習しないほうがかえって原文のよさを表現できると語るなど、彼でなければできぬ離れ業であった。

4 特別講演

Law 氏(早稲田大学)の司会のもとに講演された Nayder 女史は、ディケンズとコリンズの共同執筆(*AYR*に掲載された“Christmas Stories”)を仔細に調査し、最初こそ “The Wreck of the *Golden Mary*” (1856) ではディケンズの指示通りに執筆したが、やがて作家としての市場価値が上がるにつれてディケンズの執筆陣から退き、独立した道を選んでゆく様子を詳しく語った。1861年に Smith-Elder から 500 ポンドで小説執筆の依頼を受けたときの両者の姿を映した図版(会場で配布)は *Queen* 誌の “Committee of Concoction” で、ここでは過激な原稿に修正を求めたディケンズに対し、コリンズが猛然と食って掛かる姿を描いている。とりわけ、コリンズの階級制度に対する反抗、女権擁護、帝国の侵入がディケンズには受け入れ難かったようだ。内容は確かに面白かったが語りがやや単調にすぎ、また乗組員と船の関係を買春行為に読みとるなど、受け入れにくい解釈もあったかと思う。

5 懇親会

31 名が参加し、ワインのおいしいイタリア料理店において、荒井良雄先生の発声で和やかな交歓の一時を過ごした。

お知らせ

- 1 2003 年度 (2002.10 ~ 2003.9) の年会費 6,000 円を同封の振込用紙にて 12 月末日までにお支払い下さい。2002 年度の会費未納の方には *Dickensian* (summer) をお送りしております。ご確認下さい。今年度から入会される方は 2004 年の *Dickensian* (spring) から配布されることとなります。
- 2 『年報』26 号への投稿論文を募ります。投稿規定は『年報』の記載通りです。
- 3 Bristol 大会のプログラムと申込書が早くも届きましたので同封します。関心のある方は各自お申し込みください。(2004 年は Melbourne にて July 15-21 に開催されます。)

小池コレクションの一部紹介

Mock Titles of Books (Victoria & Albert)
Liverpool & Manchester Railway 1830 (print)
新旧の出会い (Rocket 号のレプリカと現在の列車) (print)
英国鉄道および地下鉄の切符
Ravenglass & Eskdale Railway (pamphlet)
Railway Restored
Bradshaw's Guide (時刻表 1939)
Great Western 鉄道 Iron Duke 号のレプリカ(ゲージは 7ft)(print)
Thomas Cook 銅像(print)